

# 推薦入学Ⅱ小論文試験

## 問題冊子

(岐阜大学医学部医学科)

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 本冊子の表紙を含め、11枚です。  
落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所があった場合には、ただちに監督官に申し出てください。
3. 受験番号をすべての解答用紙の指定された枠内に必ず記入してください。
4. 解答は問題ごとに、解答用紙の「マス目」を越えないようにまとめてください。
5. 解答用紙8枚と、それぞれの下書き用紙が1枚ずつあるので、解答用紙8枚を提出し、下書き用紙は問題冊子とともに持ち帰ってください。

## 4

以下の文章を読み、問に答えよ。

「平穏死を邪魔するものが、もう一つあります。非常に残念なのですが、実は患者をもっとも大切に思う配偶者や子どもたち家族です…(中略)…

もっとも多くの臨終の場に立ち会ってきた長尾医師はこう言います。「死をあってはならないこととして非常に怖がり、特に身近な人の死はできるだけ遠ざけよう、少しでも先延ばししようとしています。すでに終末期であっても、ご本人の意思とは関係なく、1日でも長く生きることが善いことと思込んでいる。そして、死が迫っていても病院へ行って治療を続ければ、奇跡が起こるかもしれないと勘違いしている人があまりに多いです」…(中略)…

大腸がんで3年間も抗がん剤治療を続けてきた女性(70)が、長尾医師に在宅医療を依頼してきたのは昨年のこと。「これ以上やったらもう死んでしまう」と、ある日を境に自分自身で抗がん剤治療をやめる決心をしたのです。

「確かに黄疸が出て、腹水がたまり、かなり衰弱されていて、私は女性の選択は正しいと思いました。ご自身で平穏死を望まれていたのです」

しかし、女性の夫も、医師である息子も「少しでもよくなってほしいから」と中止に反対しました。病院に行きさえすれば快方へ向かうかもしれないという幻想にしがみつく家族の実態です。…(中略)…

また、立派な自宅で、悠々自適の晩年を過ごしていた男性(78)もそうでした。

認知症で寝たきりになっても、お手伝いさんのサポートで優雅に在宅療養していたのです。

しかし、高額な施設に入れることが親孝行だと思込んだ息子さんが、父親の希望も聞かず、知り合いの医師に紹介された高額な老人ホームに入所させてしまいました。

「どれだけ素晴らしい場であれ、高齢者にとって見知らぬ土地での生活が幸せなはずがありません。2ヵ月後にはあっけなく旅立たれてしまいました。お葬式後、挨拶に来られた息子さんの妻は、『こんなに早く亡くなるなら、家にいてもらえば良かった』とおっしゃるのです。私は『高齢で生活の場を変えたから早く亡くなられたんですよ』と本当のことを言いました」

(家族が選んだ「平穏死」：長尾和宏・上村悦子著、50～53頁、祥伝社 平成25年刊より)

注：平穏死とは、「ピンピンコロリ」を意味するものではない。「95%の人はコロリとは死なず、それなりの療養期間を経て死んでいる。」同書16頁より。

問1 なぜ家族はこのような行動するのか考察し100字以内で記せ。

問2 平穏死についてあなたの意見を100字以内に記せ。